



2014年 11月 1日 あいとぴあ 44号
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 土田 恭義
 所在地 町田市相原町 597-56
 電話 042 (774) 2982

ホームページでも相原の情報を発信しています

相原まちづくり協議会

検索

相原のまちづくりに新たな一歩《市からのお知らせ》

検討会での駅西口の土地利用計画(案)が取りまとまりました

2016年春にはいよいよ西口駅前広場にバスが乗り入れ、皆様にご利用いただけるようになります。

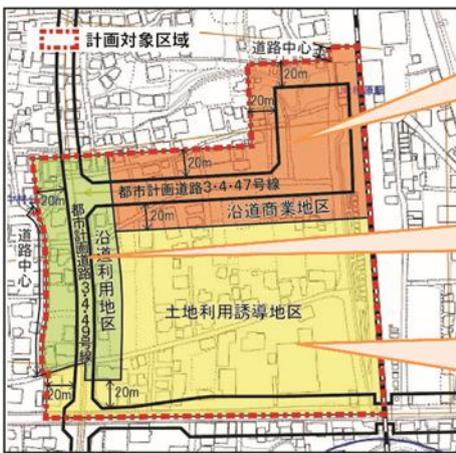
この度、道路の完成に先駆けて、地域の皆様と市で検討を進めてきた「相原駅西口土地利用計画(案)」が取りまとまりました。

これによって今後相原の街はどのような変化をしていくのか、大きな期待が高まってまいります。

市では検討会の案を踏まえ、来春を目処に駅前広場や都市計画道路沿道の用途地域等を新しい都市計画に変更してまいります。

道路が出来上がり、土地利用計画が定まり、いよいよ新しい相原のまちづくりの具体的な骨子が見えてまいりました。(相原のまちづくりの詳細については市のホームページをご覧ください。)

駅西口周辺のまちづくりの検討内容



地域の生活を支える生活中心地にふさわしい魅力とにぎわいに資する商業地を形成します。

生活中心地の一翼を担いながら、中層住宅地を主体とした良好な住環境を形成します。

相原の将来を担う重要な地区となることなどから、土地利用のあり方や都市基盤整備について引き続き検討します。

駅東口のまちづくりは検討を継続

東口検討会では、相原駅入口交差点に代わる、新しいアクセス路の整備や土地利用のあり方について、検討を重ねてきました。

地権者の方々から意見を多数頂き、今後も、アクセス路の整備と具体的な土地利用計画について引き続き検討を行っていくこととなっております。

東口地区は横浜線の駅前という高い可能性を秘めた地域です。

相原駅東口のこの先数十年の「街のデザイン」を決めることにもなり、もう一度、東口のまちづくりを地域の皆様で考えてみる事が大切ではないかと思えます。



駅東口周辺のまちづくりにおける主な検討内容

相原のまちづくり～みらいにむかって～

相原駅周辺の街づくりは、地域の皆様のご協力や相原まちづくり協議会の方々のご尽力の結果、いよいよ新たな街の実現に向けて動き出しました。これから少しずつ相原の街並みも変わります。

市では今後も市民協働で相原のまちづくりを進めてまいります。

引き続き、まちづくりへのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先

町田市都市づくり部地区街づくり課

担当：森本・秋葉

電話 042-724-4266

堺中学校で避難施設開設訓練が行われました

8月31日(日)午前9時から堺中のグラウンドで訓練を行いました。300名以上の近隣の方の参加があり(約半数は中村町会)避難所開設までの手順の確認と備蓄資機材の使用法を確認しました。

今年度のメイン会場は芹ヶ谷公園で堺地区では堺中学校をサブ会場として町田市避難施設指定職員、学校教職員、近隣町会自主防災組織が参加し行われました。



訓練のねらい 町田市役所市民部 防災課より

災害時スムーズに避難施設を開設するには、地域組織の力が必要不可欠です。

学校職員がいる平日のお昼や、担当の市職員がすぐに関与できる状況であれば最低限の案内はできますが、夜間等ですぐには来られない場合もあります。

また、施設に真っ先にたどり着くのはやはり地域の皆さんです。さらに、学校職員や市職員がいた場合であっても、避難者の方を

まとめたり情報を伝達したりするには、やはり組織の力が必要となります。

今回の訓練は、地域の皆さんに避難施設が開設されるまでの流れや、開設したあとに必要な資機材の作動方法などを職員と一緒に経験していただくことによって、実際の災害時にどのような動きや役割分担をしたらよいか、職員がいなくても自分たちの力で避難施設を開設・運営するにはなにが必要かを学んでいただく場となっています。



大釜

以下の訓練を行いました

訓練では、避難施設になる堺中学校の体育館の被害状況を確認し、参加者が避難者名簿への記入をした後、各町会が3グループに分かれ、炊き出し班、仮設トイレ設置班、給水班として防災備蓄倉庫の資機材を使用し訓練が開始されました。

炊き出し班は、大きな炊

き出し釜でお湯を沸かしアルファ化米を制作し、小分けパックに詰め参加者に配布しました。

仮設トイレ設置班はトイレの組み立てとバルーン投光器の動作確認をしました。

給水班は濾水機の実際の使用方法和発電機の動作確認をしました。



バルーン投光器



仮設トイレ



濾水機と発電機



濾水機



仮設トイレ

相原遺産 青木得庵天然痘撲滅に貢献しました

大正時代の文献に『八王子を中心とする郷土偉人伝』清水庫之祐著があります。それには『始めて種痘を伝えた刀圭家青木得庵』と題し、得庵について末尾に、「彼は文化11年8月21日に生まれ、通称武平、得庵と号した。

早くから医を本田覚庵に学び書は市川米庵に学んだ。・・・晩年下相原の組頭となって村治に努めた。慶応2年3月14日61歳で没し、青木家共同墓地に眠っています」とあります。しかし慶応2年から数え61年前は文化3年になります。生まれた年代に誤記があったと思われる。得庵は15歳頃、下相原の青木家に呼ばれます。25歳のとき青木家当主易直の妹喜代に婿養子として入籍します。

「思無我」篤庵書



得庵は相原（今の相原駅の西口）で医院を開業しました。息子の玄朴とともに種痘の技術を入手します。種痘

をライフワークとします。ただ玄朴は早世してしまいます。得庵は天然痘撲滅の夢を叶えるため娘のヤスにのちの青木芳齋を養子として入籍させます。この当時得庵と芳齋が種痘をしてまわった範囲は、高座郡・津久井郡・相原地域と広範囲にわたっており数万人に種痘を接種したものとされます。芳齋は坂下に回春堂を開業しています。

この頃はまだ牛痘種痘は黎明期であり大変な苦労があったものと思われます。

明治25年妻喜代は清水寺境内に『善寧児(ジェンナー)先生碑』を建立します。その裏面には青木得庵種痘普及為紀念』とありその功績を讃えています。

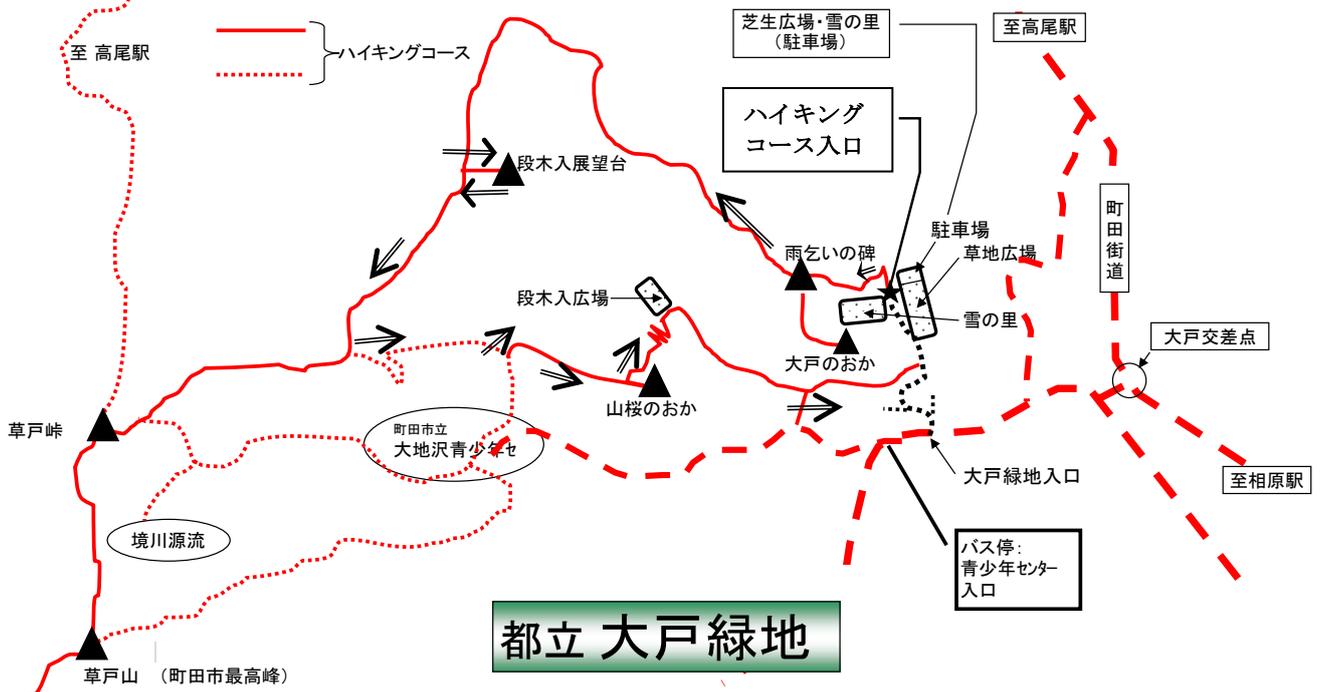


大戸緑地をご存知ですか

大戸緑地は東京都が整備をつづけている都立公園です。公園ではボランティアで大戸源流森の会の方々が自然体験型のイベントなどいろいろな行事を行っています。

ハイキングコースなども整備された、相原にある自然豊かな公園です。

都立公園や大戸源流森の会のホームページからもイベントの予定などを見ることができます。



平成26年

11/23 日

開場：13:00
開演：13:30
～15:30

堺市民センター
2階ホール

入場無料



第17回まちづくり講演会

みんなで考える
相原の児童福祉と障がい福祉



福祉行政への取り組み

町田市子ども生活部 部長 小池 晃

地域における児童福祉活動

町田市立こうさぎ保育園 施設長 加藤 みつ枝

町田市立子どもセンターばお 館長 石井 真由美

児童委員からみた児童福祉の現状

堺地区民生児童委員協議会 会長 杉浦 英徳

地域における障がい福祉活動の現状

社会福祉法人つぼみの家町田ゆめ工房 施設長 斉藤 淑
福祉の向上を目指したまちづくり

法政大学現代福祉学部 教授 宮城 孝

主催 相原まちづくり協議会

共催 町田市

後援 相原地区連合町内会

町田市青少年健全育成相原地区委員会

法政大学 現代福祉学部

堺地区民生委員児童委員協議会

社会福祉法人町田市社会福祉協議会

社会福祉法人つぼみの家町田ゆめ工房

あいほら住民福祉協議会

お問い合わせ (守屋)

042-773-5601

090-6932-3678